

# 「地域の備えは、自助と共助の 見守り合いで！」



神奈川県片倉町大丸町内会 減災プロジェクト  
松島 宗

大丸町内会  
500世帯



# 神奈川区片倉町大丸町内会 減災計画

## おとなり場システムの仕組みづくり

地震災害の発災時、近所の人々が近所の人を助ける**近助体制**を町内会で構築することが人の命を救う減災活動にとって一番重要な事柄です。

この近助ということを動機づけとして、よこはま地域づくり大学校で地域づくりを学び、大丸町内会青年部の方々と**コミュニティー防災拠点づくりを含む「減災計画」策定**に取り組んでまいりました。

その結果、大丸町内会の平成25年度事業計画「自主防災組織の立ち上げ」について各種の提言をまとめて、総会にはかることができました。

計画の内容についてご説明申し上げます。

# 自主防災組織を立ち上げます

減災拠点は  片倉公園に設置

## 自主防災組織の位置付け

大規模災害において被害を最小化するためには、消防機関等の公共機関の活動のみに頼ってはいけません。達成できないことを私たちは、数多くの災害の経験を通して学んできました。

つまり災害の被害を軽減させる（このことを「減災」と呼びます）には、公共機関による救助・支援などの“公助”に加えて、地域住民相互による援助である“共助”、そして自らが自らを守るという意味での“自助”のそれぞれが必要であるということです。

自主防災組織は、このうち、“共助”のための中核の組織となるもので、かつ“自助”を行う住民個人を直接・間接に支える地域における基盤組織となるものです。

地域には寝たきりの高齢者、身体機能障害者等、災害に際して介助の必要な人々も住んでいます。災害のように緊急性を有する事態では、公共機関による支援、救出救護等が災害発生直後には期待できない事も多くあります。自主防災組織の共助の活動は、このような人々の被害を軽減させるのに極めて重要なものです。

# 自主防災組織の目的・役割

大規模な災害時に減災を効果的かつ速やかに実施するためには、**初期消火、被災者の救出救護、避難等の防災活動**を行うことが不可欠です。

しかしながら、このような活動は、住民各自がばらばらに行動していても効果は少なく場合によっては混乱をもたらす事さえあります。地域としての防災力を最大限発揮するためには、何らかの形で**組織だった活動**が必要となります。

したがって、地域住民による防災活動を組織的かつ実効性のあるものとするためにつくられるのが**自主防災組織**と言えます。

自主防災組織は、①平常時の役割と②災害時の役割の二つを通常持ちます。**平常時**には、仮に災害が起こったとしても、その予想される被害を出来るだけ軽減させるような活動、つまり予防的活動を行うことが求められます。

また同時に、災害が発生したときに備え、地域防災力が最大限発揮できるような体制や状態を準備・用意するための活動を行います。一方、**災害時**にはその時々状況に応じて、地域の減災のために**安否確認・初期消火、救出・救護、避難誘導**などを行い、また、予め用意した様々な対策を**機動的に行うこと**が役割となります。

# 発災時の体制づくり

以上のべられてきたことはすでに基本情報として指摘されてきたことです。震災時は「みんな」で助け合うことが必要ですと述べています。「みんな」という抽象的な言葉で終わっている防災マニュアルがほとんどです。阪神大震災の時建物などに挟まれた人を助けたのは「近所の人」でした。この助けた人は偶然そこにいた近所の人で、たまたま近くにいた人です、他の多くの人々が挟まれたまま火災にあい亡くなったといえます。この時本当に「みんな」で助けあうことができたでしょうか、出来なかったはずですが、原因は地震が起こるという予測や防災組織が全く機能しなかつたからです。

隣人同士や向こう3軒両隣など目の届く範囲の結びつきや近隣共同体が機能してこそ自主防災組織や広域共同体を支えることができるのです。では機能させるにはどうすべきでしょうか。それには以下の手順で機能する組織を作ることだと考え、提言いたします。

主として要介護者の方のためにいつとき避難場所を確保



安否確認

ブロック別おとなり場に  
避難する。  
となり近所の人達と

片倉公園減災拠点



おとなり場



付近の 公園 駐車を  
おとなり場カードに事前に登録しておく。

いつとき避難場所

在宅被災生活者

自宅建物が火災  
や倒壊の危険が  
ないときは、あえ  
て避難の必要は  
ありません。安否  
について防災委  
員に連絡して自宅  
に戻る。

情報・物資を拠  
点に取りにゆく

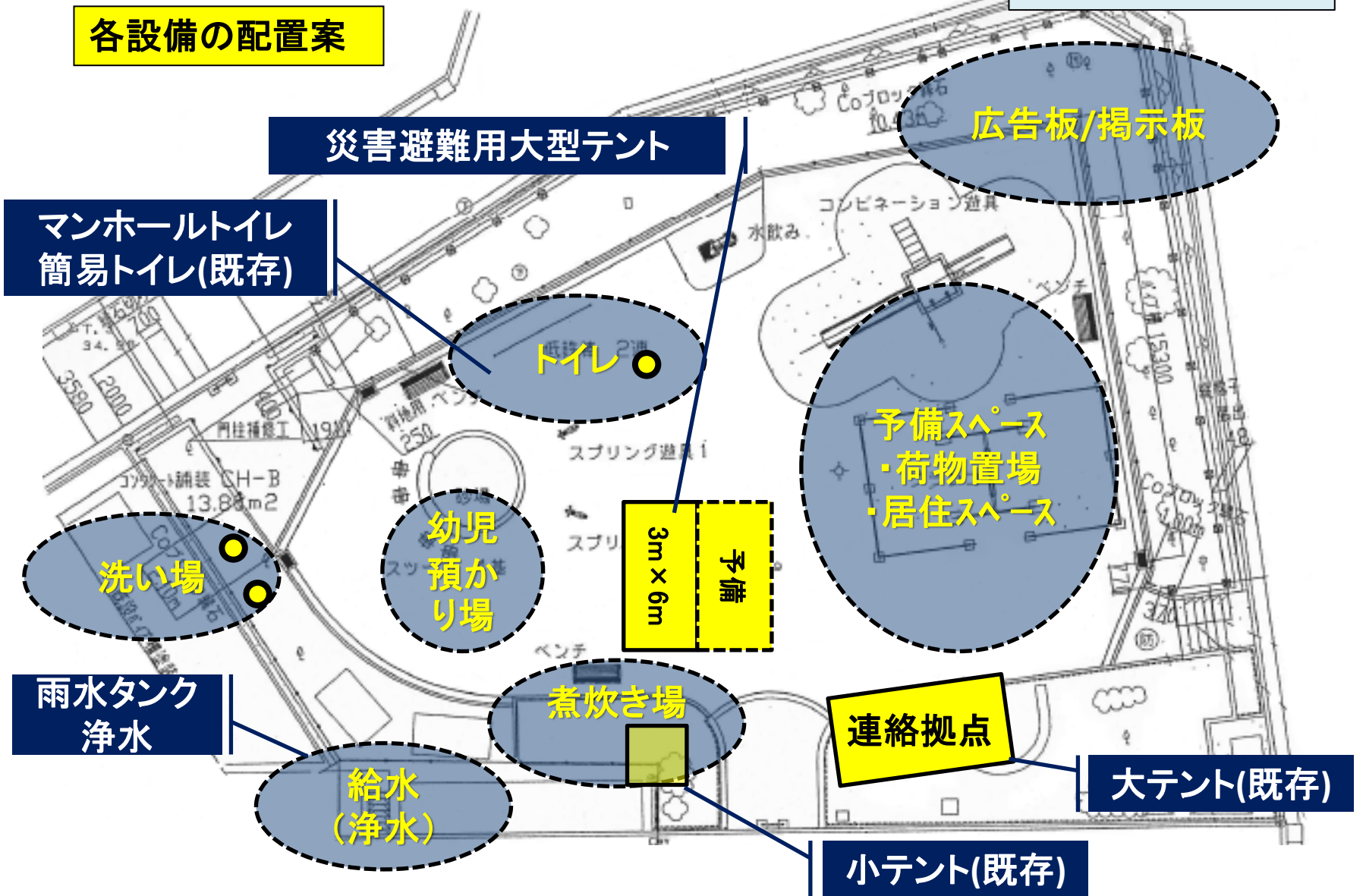
場所・人数を報告

中丸小学校地域防災拠点  
自主防災組織との連携



# 拠点配置

## 各設備の配置案





# アクションプラン

(1) 具体的に機能させるためには現在の町内会のブロック編成を変え、震災用に組みなおす。この編成は原則としては道路を挟んで玄関が対面しているおとなり、つまり日々の生活であいさつしたりして、その家族の状況、顔が見える家の10軒を1ブロックとして編成をします。震災用のブロックです。防災役員がこのブロックの中から「おとなり場リーダー」を決めます。ブロックごとに防災委員1名、副防災委員2名を決めます。避難訓練もこのブロック単位で行う。

(2) 大丸おとなり場の確保：各ブロック10軒が発災時一時的にみんなで避難する場所を決め申請をする。防災役員でブロックからの申請の適否を検討し、決定する。おとなり場とはブロック単位で一緒に避難する場所です。(例)近くの駐車場・空地・公園等

(3) 大丸おとなり場カードの作成(毎年1回作成)：大丸おとなり場カードを2枚作成して1枚は自分のブロックの防災委員が管理し、もう一枚は片倉大丸防災隊長が管理する。カードに基づき会員の安否確認等をします。手助けが必要な人や避難していない人をいち早く把握し、皆で助けることができます。発災時にブロックの防災委員がトランシーバーで片倉防災拠点に安否状況・被災状況を逐次連絡する。(取扱い規定を作る必要)

(4) おとなり場グッズ袋の配布・管理：ブロック防災委員に基本的な救助避難品一式とその中におとなり場カードを入れ管理する。

(5) 大丸ハートに登録しよう：全世帯に説明、配布し記入してもらおう。できることが必ずあるはずです。3月に配布済みです。登録キャンペーンを随時行い回収します。

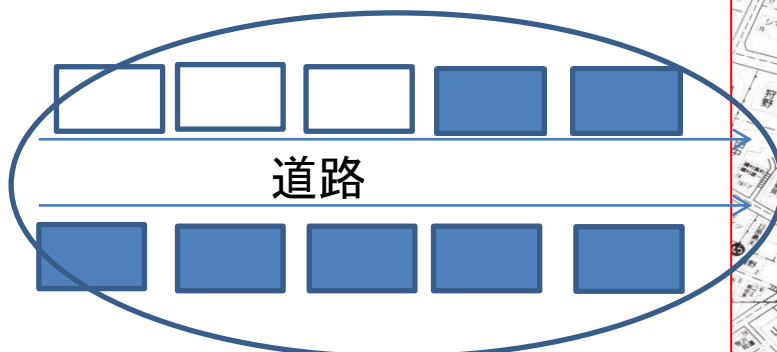
(6) 片倉公園減災拠点(一時避難場所)設置理由：要介護者の避難場所、会員の安否確認の拠点とします。要支援者一人暮らしの高齢者 子供(小学生・幼児)のいる世帯 障害者のいる世帯の方が罹災された時片倉公園を一時避難場所として利用します。

# (1) ブロックの編成替え

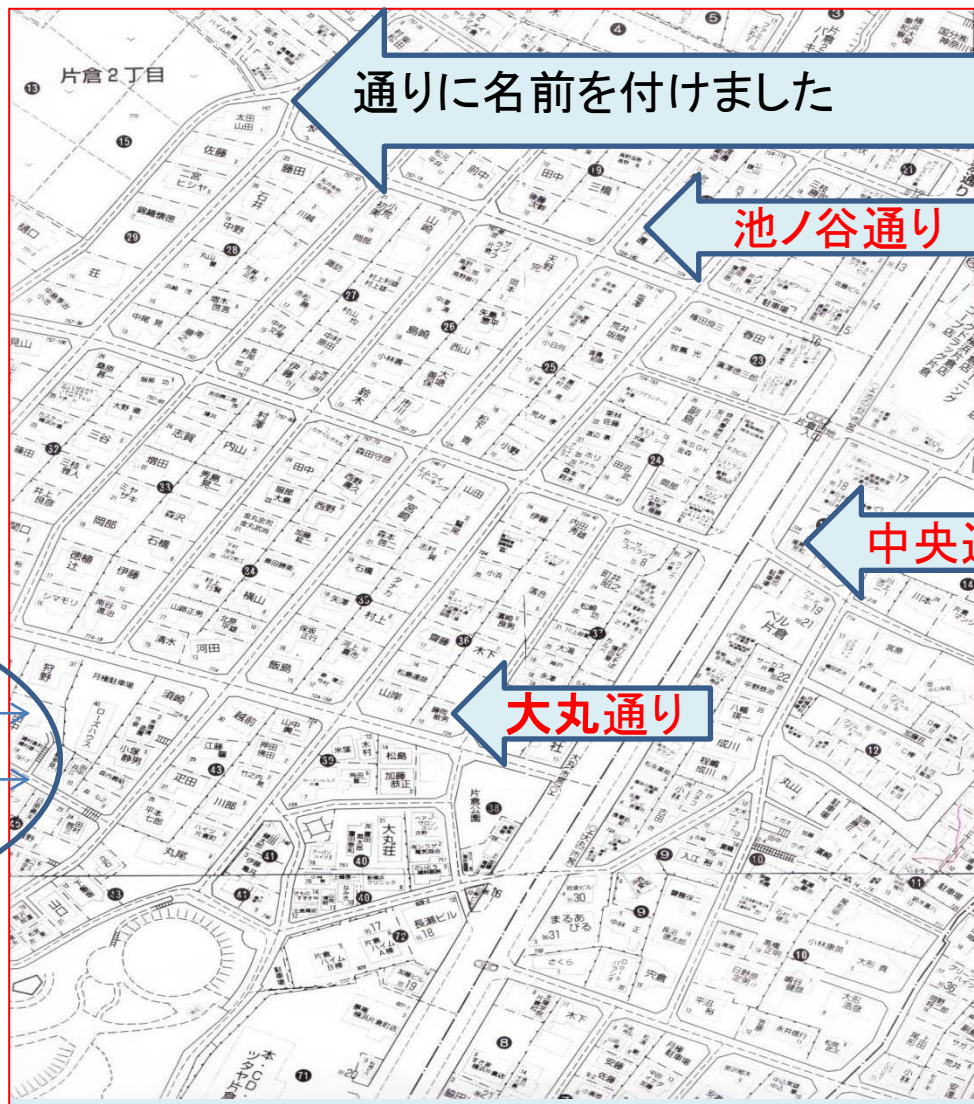
この編成は原則としては道路を挟んで玄関が対面しているおとなり、つまり日々の生活で挨拶したりする、その家族の状況、顔が見える家の10軒を1ブロックとして編成をします。

震災時のブロックです。

現在の区割りは27ブロックになっているこれはあくまでも基本線を引いたものであり街区の世帯構成により編成を変えることもあります。



震災時のブロック



## (2) おとなり場の確保



近くの幅の広い道路や耐震性のある建物等



近くの駐車場

「おとなり場」を活用しましょう

- ◆震度5強以上なら「おとなり場」に集まると決めておく。
- ◆集まった人たちで、お互いに安否情報や被害情報を共有する。
- ◆集まった人たちが協力して、近所の高齢者や障害者等とともに片倉公園減災拠点・地域防災拠点へ避難させる。

(注)把握した安否情報や被害情報(自宅で被災生活を送る方の人数など)は、行政が地域に支援を行う際に必要な情報ですので、片倉公園減災拠点に伝えてください。

# (3) 大丸おとなり場カードの作成

(主な記入欄の説明)

①ブロック防災委員が配布記入依頼をする。

②おとなり場所(一時避難場所)を記入する。

③在住者名を記入する。在宅の状況は通常、主としている状況を基準としています。

④平日昼:平日夜、休日昼:休日夜の記載は安否確認をするとき大切です。

⑤70歳以上・幼児・要支援者・その他必要なものの記載も安否確認と同時に行動ができますので重要です。

※宛番

大丸おとなり場カードブロックNO 1

記入報告時刻 年 月 日 午前・午後 時

おとなり場所

このカードは、地震・火事などの災害が発生した時に、安否確認を迅速に行い、避難拠点に報告するためのものです。安否確認の記載方法：避難場所が何人の有無：救助の有無は〇印を該当欄に記入してください。

ブロック 防災委員名 \_\_\_\_\_  
 要防災委員名 \_\_\_\_\_  
 要防災委員名 \_\_\_\_\_

避難先電話番号: \_\_\_\_\_

緊急時家族待合合わせ場所: 中丸小学校 正門前

在住者名 人数( )	在宅の状況 (在宅:○、不在:×)				該当者に○		避難時に 手助けが 必要な人 に○	その他 必要な ものに○	災害時の状況
	平日昼	平日夜	休日昼	休日夜	70歳 以上	幼児			
□□□	×	○	○	○					
□□□	○	○	○	○					
□□□	○	○	○	○		○		乳児	
□□□	×	○	○	○					
□□□	○	○	○	○	○		○	車椅子	
犬、ペット	○	○	○	○					○

※ カードは注者ごとに作成しますので2世帯住宅の場合でも1枚ずつ記入ください。  
 ※ 各ブロック防災委員は事前にカードに在宅状況を記入してからの集客、災害時に安否確認して、片倉公園の拠点に集める。  
 ※ 「在宅時の状況」は通常、主としている状況を基準にします。  
 ※ 「災害時の状況」には何も書かないでください。  
 ※ 記載の内容に変更があった場合は、新たに作成しブロックの防災委員に提出してください。  
 ※ このカードは2枚作成し、1枚は防災拠点隊長が管理し、1枚はブロック防災委員が管理いたします。毎年新たに提出してください。

※モ

片倉町大丸町内合同防災プロジェクト防災委員・青年部

# (4) 大丸おとなり場カードの保管

※**注意書**

大丸おとなり場カードブロックNO 1

記入開始時刻 年 月 日 午前・午後 時

**おとなり場所**  
このカードは、地震・火事などの災害が発生した時に、安否確認を迅速に行い、避難場所に到着するためのものです。安否確認の記載方法：避難場所が本人の青紙：救助の青紙は〇印を該当欄に記入してください。

ブロック 防災委員名 \_\_\_\_\_  
副防災委員名 \_\_\_\_\_  
副防災委員名 \_\_\_\_\_

避難先電話番号： \_\_\_\_\_  
緊急時家族待ち合わせ場所：中央小学校 正門前。

在住者名 人数	在宅の状況 (在宅：○ 不在：×)				担当者 70歳 以上	避難時に 手助けが 必要な人 の人数	その他 必要な もの	災害時の状況
	平日	平日	休日	休日				
□ □ □	×	○	○	○				
□ □ □	○	○	○	○				
□ □ □	○	○	○	○				
□ □ □	×	○	○	○				車椅子
□ □ □	○	○	○	○				

※ カードは住者ごとに作成しますので2世帯住居の場合でも1枚ずつ記入してください。  
 ※ 各ブロック防災委員は事前にカードに在宅状況を記入してらる保管、災害時に安否確認して、片着公園の熱点に貼る。  
 ※ 「在宅時の状況」は通常、主としている状況を基準にします。  
 ※ 「災害時の状況」には何も書かないでください。  
 ※ 記載の内容に変更があった場合は、新たに作成しブロック防災委員に提出してください。  
 ※ このカードは2枚作成し、1枚は防災熱点隊長が管理し、1枚はブロック防災委員が管理いたします。毎年新たに提出してください。

※モ \_\_\_\_\_

片着町大丸町内会減災プロジェクト防災委員・青年部



(救急袋)おとなり場グッズ袋の配布  
ブロックのおとなり場カードをその中に  
保管する

# (4)大丸おとなり場カードで安否確認

視覚者

大丸おとなり場カードブロックNO 1

記入期特別 年 月 日 午前・午後 時

おとなり場所

このカードは、地震・火事などの災害が発生した時に、安否確認を迅速に行い、避難地点に集合するためのものです。安否確認の記載方法：避難場所への人の有無、救助の有無は、必ず該当欄に記入してください。

ブロック 防災委員名

副防災委員名

副防災委員名

避難先電話番号

緊急時家族持ち合わせ場所：中丸小学校 正門前

在住者名 人数( )	在住者の状況 (在名：○ -不在：×)				該当者		避難時に 手助けが 必要な人 に○	その他 必要な ものに○	災害時の状況
	平日昼	平日夜	休日昼	休日夜	70歳 以上	幼児			
□ □ □	×	○	○	○					
□ □ □	○	○	○	○					
□ □ □	○	○	○	○			○	病児	
□ □ □	×	○	○	○					
□ □ □	○	○	○	○	○		○	車椅子	
犬、ペット	○	○	○	○					

※ カードは注書ごとで作成しますので世帯住者の場合で61枚ずつご記入ください。

※ 各ブロック防災委員は事前にカードに在住状況を記入していただき、災害時に安否確認して、片着公園の拠点に集まる。

※ 「在住者の状況」は通常、生きている状況を確認します。

※ 「災害時の状況」には書き留めがないでください。

※ 記載の内容に変更があった場合は、新たに作成しブロック防災委員に提出してください。

※ このカードは2枚作成し、1枚は防災拠点隊員が管理し、1枚はブロック防災委員が管理いたします。毎年新たに提出してください。

×モ

片着町大丸町内会震災プロジェクト防災委員・青年部

おとなり場カードに基づき同じブロックの会員の安否確認をします。手助けが必要な人や避難していない人をいち早く把握することで、みんなで助けあうことができます。自宅に避難して安全な方はその旨のステッカーを張り出す。

助けが必要な時は、このステッカーを玄関に表示してください。

## 助けが必要です

**在宅** **名** **負傷者** **名**

救助完了した時は「救助しました」を○で囲んで時刻を記入してください。

**救助しました** 救助者

**確認時刻** 時 分

在宅者が無事な時は、このステッカーを玄関に表示してください。

## 在宅者無事です

**在宅** **名**

確認者

**確認時刻** 時 分

# (4)大丸おとなり場カードの安否確認 片倉公園減災拠点本部に連絡

おとなり場カードに基づき同じブロックの会員の安否確認を記入し、その状況をトランシーバーで伝達する。

※宛番

大丸おとなり場カードブロックNO 1

記入期日時刻 年 月 日 午前・午後 時

おとなり場所 \_\_\_\_\_

このカードは、地震・火事などの災害が発生した時に、安否確認を迅速に行い、地域拠点に報告するためのものです。安否確認の記載方法：避難場所/ケガ人の有無：救助の有無は□印を該当欄に記入してください。

ブロック 防災委員名 \_\_\_\_\_  
副防災委員名 \_\_\_\_\_  
副副防災委員名 \_\_\_\_\_

避難先電話番号： \_\_\_\_\_

緊急時家族待ち合わせ場所：中丸小学校 正門前

在住者名 人数( )	在宅の状況 (在宅：○、不在：×)				該当者□□ 70歳以上	避難時に 手助けが 必要な人 □□	その他 必要な もの □□	災害時の状況
	平日昼	平日夜	休日昼	休日夜				
□□□	×	○	○	○				
□□□	○	○	○	○				
□□□	○	○	○	○			犬	
□□□	×	○	○	○				
□□□	○	○	○	○				
犬、ペット	○	○	○	○				

※ カードは注書ごとで作成しますので2世帯住宅の場合でも1枚ずつ記入してください。

※ 各ブロック防災委員は事前にカードに在宅状況を記入して6枚の袋を、災害時に安否確認して、片倉公園の拠点に届けます。

※ 「在宅時の状況」は通常、主としている状況を基準にします。

※ 「災害時の状況」には何も書かないでください。

※ 記載の内容に変更があった場合は、新たに作成したブロック防災委員に提出してください。

※ このカードは2枚作成し、1枚は防災拠点隊長が管理し、1枚はブロック防災委員が管理いたします。毎年新たに提出してください。

×モ

片倉町大丸町内会減災プロジェクト防災委員・青年部

**SLT001 特定小電カトランシーバー** 免許・資格不要

**3大特長**

- ・充電式バッテリー + 充電器 が標準セット
- ・充電式バッテリーとアルカリ電池の2電源対応
- ・長時間使用可能 (充電式バッテリー：連続約70時間<sup>※1</sup>、アルカリ電池：連続約90時間<sup>※2</sup>)

標準付属品  
充電式バッテリー  
充電器  
ACアダプター

品名	カラー	品名コード	標準価格(税別)
SLT001(B)	ブラック	4076052500	14,500円
SLT001(S)	シルバー	4076052510	14,500円
SLT001(G)	ゴールド	4076052520	14,500円

■ 交差通話、20CH対応<sup>※1</sup>  
■ 防水性能(JS保護等級4相当)  
■ 回転収納高性能アンテナ

基本仕様	電源仕様	基本性能
チャンネル数	20チャンネル <sup>※1</sup>	グループモード(GTCS)
使用周波数	400MHz帯	キーロック
寸法(高さ含む)	95.0×95.2×26.4(本体) 約78.0×47.4×28.0(充電器)	バックライト照度表示機能
質量(約)	約190g(充電式バッテリー含む) 約72g(充電器)	バックライト照度警告音
バッテリーライフ(充電式/リチウム)	約70時間(Ni-MH) <sup>※2</sup> 約90時間(Li-Ion)	目覚ましアラーム
充電時間(約)	約2時間	設定項目(一部)
防水性能	JIS4相当、防塵型	センシングオートン
使用温度範囲(℃)	-10～+50	VOX
		スクリーンロック
		スクリーンロック解除
		スクリーンロック解除

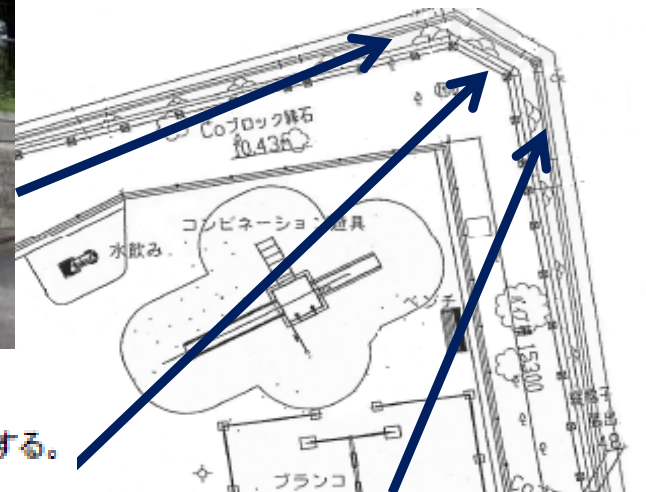
※1：1チャンネル・1送信機・1受信機に設定した場合。  
※2：条件：送信10分、受信10分、待機電力100mAの条件下で動作させた場合。  
※3：アップグレードのメーカーよりお問い合わせください。

製造元 **Uniden ユニデン株式会社** 販売店  
販売元 **M ミドリ安全株式会社**

## 拠点に求められること:

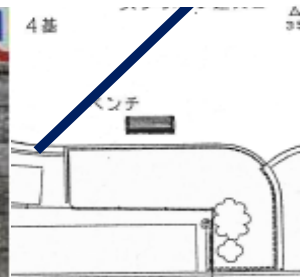
- ・家族の安否確認等のための情報を収集、開示、閲覧できること。
- ・地域防災拠点(中丸小学校)との連絡手段を有し、連絡係が駐在できること。

## 情報開示/閲覧



## <<災害発生時 緊急広報板 消息掲示板>>

- ・経費節減/収納スペース節約のため、対外掲示板は、ビニールブルーシートを利用する。
- ・雨天対策として、上に被せる透明ビニールシートも用意する。
- ・費用は、紐等も含め1万円程度。





# (5)大丸



# に登録しよう

あなたの大切な人を守ろう！

登録日： 年 月 日

だいまる ハート

## 「大丸に登録しよう！」

大きな震災が起こったとき大丸町内にお住いのあなたのハートが必要です。  
何でもかまいません。あなたが持っている「技」や「できること」を災害が発生する前に登録していただくをお願いします。

心りがな	
氏名	
住所	片書 丁目 番 号
連絡先	自宅： 緊急時：
性別	男・女
生年月日	大・昭・平 年 月 日 (歳)
職業	
保有資格・免許	
災害時の活動(協力で きる項目の番号に○を してください。いくつ でも結構です)	【一般分野】 1.被災住民の安否確認 2.避難所手伝い炊き出し・洗濯・水運び等 3.物資の搬運・運搬 4.物資の仕分け・配布 5.屋内・屋外の片づけ 6.引越し手伝い 7.移送サービス 8.募金活動 9.話し相手 10.高齢者・障害者へのサービス(配食・買い物等) 11.子供の遊び相手等 12.その他( ) 【専門・資格分野】 1. 医療・救助活動 2.介護・介護補助 3.通訳等の外人支援 4.ボランティアのコーディネーター 5.土木建設・障害物除去作業 6.運搬作業 7.清掃作業 8.接客・美容作業 9.ペットの世話 【上記以外の活動】
商店・企業の協力	店名・社名：
提供できる資・器材	
親権者の同意(未成年者の場合) この大丸ハート登録に親権者として、同意いたします。 親権者氏名： ① 連絡先： ( ) 親権者住所： 〒	

※登録された情報は町内会防災活動においてのみ使用し、その他の目的には一切使用しません。  
また、本登録は災害時に、登録者に職務を課すものではありません。

片書町大丸町内会防災プロジェクト 防災委員・青年部

大きな震災が起こった時大丸町内にお住いのあなたのハートが必要です。

子供から、元気なお母さん  
元気な高齢者までできること  
登録してください。

あなたが持っている「技」や「できること」を震災が発生する前に登録していただくをお願いします。

登録キャンペーンを随時行います。

総会にて減災対策・関連予算が承認されました、

## 大丸減災プロジェクトが始まります。

向こう三軒両隣（おとなり場）の精神で始めましょう

ハード 面については備蓄庫の購入等役員会で実行してゆきます。

ソフト 面については町内会員の皆様のご協力を頂きすすめてまいります。



おとなり場計画

# おとなり場計画とは

- ◎町内を減災専用の27班に分けます。
- ◎自分の班と「向こう3軒両隣＝おとなり場」を確認します。
- ◎自助・共助（自分が助かりおとなりさんを助ける「向こう3軒両隣助け合いの精神」＝おとなり場）の意識を高めます。
- ◎災害時にはお隣同士で安否を確認しあい、あらかじめ決めておいた「おとなり場」に一時的に避難します。

# おとなり場システムの構築

- ◎おとなり場の意味と目的を理解していただきます。
- ◎おとなり場を探し（町内会役員が実測して）決めます。
- ◎おとなり場カードの作成・記入方法を説明します。  
安否確認システムとして取扱規程作成
- ◎おとなり場班単位で、班長と副班長2名を選びます。（原則年当番の役員）（不在の班は該当者を選択）
- ◎おとなり場カードにより安否確認をしてトランシーバーで片倉公園減災拠点への連絡をする。

◎勉強会担当は町内会役員・減災プロジェクト委員が務めます。（「おとなり場勉強会」運営マニュアル作成）

◎班防災委員がおとなり場カード、救急袋、トランシーバーなどを保管します。

◎勉強場所は、おとなり場班単位に行います。

◎おとなり場班1番から27番の勉強会の月間スケジュール日程のなかから開催日をおとなり場班ごとに回覧にてご案内いたします。（年当番の方が回覧担当）（不在の場合別途依頼）

# 「おとなり場」勉強会のご案内

平成25年7月5日

片倉町大丸町内会会長小野弘正、  
大丸減災プロジェクト委員

大丸町内会会員：第20班各位

「おとなり場」勉強会のご案内

「おとなり場」の説明会を下記のとおり開催いたします。  
町内会のブロック単位でなく一番身近な単位で避難活動を実施することになりました。  
災害時の安否確認を迅速に行うために、顔の見える範囲のお向かいどうし・おとなりどうし（10軒程度）  
をひとつの班としてまとめたものです。  
今回はおとなり場班の初めての顔合わせになります。ぜひみなさんでご参加ください。お待ちしております。

日時：平成25年7月21日（日曜日）午前10時から11時まで1時間

場所：なでしこハウス（旧成川医院）

出席案内者：おとなり場第20班のみなさん

伊藤・南谷・山路・村上・下村・金丸・田中・高石・内山・秀島・森沢・石橋

（出欠については必ず当日の担当役員までご連絡ください。）

勉強会担当者：松島宗 防災グッズ担当者 程嶋恵子

連絡先：担当役員松島宗 ☎045-481-6215

## 勉強会の内容

- ◎おとなり場の意味と目的を理解していただきます。
- ◎自分たちの班別におとなり場を決めます。
- ◎おとなり場カードの作成目的を理解していただきます。
- ◎おとなり場班単位で、防災委員1名と副委員2名を選びます。
- ◎おとなり場カードを使い安否確認を行いトランシーバーで連絡する訓練をします。
- ◎委員がおとなり場カード・救急袋・トランシーバーを保管します。
- ◎大丸♥登録カードの記入について説明いたします。以上

# 「おとなり場」勉強会の案内

平成25年7月5日

片倉町大丸町内会会長小野弘正  
大丸減災プロジェクト委員

大丸町内会会員：第20班各位

「おとなり場」勉強会の案内

「おとなり場」の説明会を下記のとおり開催いたします。  
町内会のブロック単位でなく一番身近な単位で避難活動を実施することになりました。  
災害時の安否確認を迅速に行うために、顔の見える範囲のお向かいどうし・おとなりどうし（10軒程度）  
をひとつの班としてまとめたものです。  
今回はおとなり場班の初めての顔合わせになります。ぜひみなさんでご参加ください。お待ちしております。

日時：平成25年7月21日（日曜日）午前10時から11時まで1時間

場所：なでしこハウス（旧成川医院）

出席案内者：おとなり場第20班のみなさん

伊藤・南谷・山路・村上・下村・金丸・田中・高石・内山・秀島・森沢・石橋

（出欠については必ず当日の担当役員までご連絡ください。）

勉強会担当者：松島宗 防災グッズ担当者：程嶋恵子

連絡先：担当役員松島宗 ☎045-481-6215

## 勉強会の内容

- ◎おとなり場の意味と目的を理解していただきます。
- ◎自分たちの班別におとなり場を決めます。
- ◎おとなり場カードの作成目的を理解していただきます。
- ◎おとなり場班単位で、防災委員1名と副委員2名を選びます。
- ◎おとなり場カードを使い安否確認を行いトランシーバーで連絡する訓練をします。
- ◎委員がおとなり場カード・救急袋・トランシーバーを保管します。
- ◎大丸♥登録カードの記入について説明いたします。以上

11月10日(日)おとなり場安否確認訓練を行いません。  
午前9時に各おとなり場に皆さんの顔をみせてください!

00がおとなり場の位置です。

# 大丸町内会 減災対策 各班のおとなり場

※この地図は会員の皆様の位置関係を表したもので地積等は正しく反映されていません。



**大丸減災対策拠点**  
(テント・車イス、リヤカー) 備蓄

**なでしこハウス** (医薬品 非常食) の備蓄

[片倉一丁目]

[片倉一丁目]



# 減災対策の“おとなり場”が決まりました!

地図の緑色の○囲み数字がおとなり場の位置です。日頃から確認をしておいてください。

おとなり場班番号	防災委員	副防災委員	副防災委員	おとなり場
1番	室伏委員	副・福田	副・未定	池ノ谷バス停留所
2番	細田委員	副・戸邊	副・片山	細田宅前道路
3番	高島委員	副・田中	副・中西	後藤・前中宅前道路
4番	岩本委員	副・伊藤	副・赤羽	岩本宅前道路
5番	明武谷委員	副・本田	副・未定	松山宅前道路
6番	古田委員	副・小林	副・平野	ベル片倉駐車場
7番	軽部委員	副・本多	副・小林	増田宅駐車場
8番	金森委員	副・副島	副・鈴木	ヒップ駐車場・岡部宅前道路
9番	小野委員	副・薦田	副・桑本	ヒップ駐車場
10番	安(典)委員	副・西山	副・山下	西山・松下宅前道路
11番	村上委員	副・原田	副・梅津	サンライフ前駐車場
12番	南委員	副・中村	副・岡部	池ノ谷の通り小荒宅前道路
13番	太田委員	副・中野	副・小池	錦織・丸山宅前道路
14番	樋口委員	副・菅井	副・長井	樋口宅
15番	古田委員	副・小林	副・平野	ベル片倉駐車場
16番	佐藤委員	副・田中	副・立川	立川宅
17番	内田委員	副・落合	副・川上	木下宅駐車場
18番	近藤委員	副・田中	副・斎藤	田中宅駐車場
19番	西野委員	副・保坂 <small>奈津</small>	副・保坂 <small>祐理子</small>	松下宅駐車場
20番	秀島委員	副・伊藤	副・石橋	森澤宅
21番	志賀委員	副・宮崎	副・辻	宮崎・三枝宅前道路
22番	波多野委員	副・鶴原	副・角田	波多野・北村宅前道路
23番	青島委員	副・近藤	副・甲斐庄	近藤宅道路
24番	白毛委員	副・斎藤	副・佐藤	片倉公園
25番	木村委員	副・小林	副・木村 <small>みよ子</small>	片倉公園
26番	平本委員	副・越前	副・今泉	越前宅駐車場
27番	河田委員	副・亀田	副・狩野	神戸宅前道路



# おとなり場班長・副班長委嘱式

減災・防災グループ 令和4年度担当者

令和4年度年当番

令和3年度サポート

世話人 C-1 軽部直子

C-2 近藤立三

会計担当 D-3② 亀田雅美

A-2 土田真一

D-3② 戸邊明子

B-3 藤原豪人

## おとなり場班長・副班長2名の選出

- ① おとなり場委嘱式の開催
- ② おとなり場安否確認訓練
- ③ デジタル簡易無線導入に伴う各種訓練

# おとなり場訓練案内

大丸町内会としておとなり難訓練をします。

11月10日（日）午前9時に震度5強の地震がという想定をして、あなたのおとなり場に避難します。おとなり場勉強会にご参加できなかった方も内容が良く分からない方もまず避難してください。あなたのおとなり場へ

この訓練は避難する行動をまずしてみるという訓練です。そして避難されてきた方は安否の確認ができます安否確認訓練です。

防災委員は当日おとなり場に集まった方の人数を確認してトランシーバーで報告しましょう

**11月10日（日曜日）午前9時**

あなたの班のおとなり場へ

おとなり場班長

# おとなり場安否確認表

片倉大丸町内会安否確認訓練安否確認表					
班名	班員数	安否確認数	班名	班員数	安否確認数
第1班		5	第15班		19
第2班		14	第16班		12
第3班		15	第17班		9
第4班		9	第18班		15
第5班		6	第19班		21
第6班	13名にきむ	0	第20班		14
第7班		8	第21班		20
第8班		8	第22班		17
第9班		7	第23班		12
第10班		15	第24班		5
第11班		20	第25班		20
第12班		6	第26班		10
第13班		12	第27班		14
第14班		14	小計		188
小計		139	合計		327
★当日07時40分に震度3の地震が偶然に発生した					

# 災害時の在宅避難を想定して 自助・を強化する

## 住まいを安心な場所にする

- ①寝室/子供部屋対策
- ②家具の転倒防止対策
- ③ガラスの飛散防止対策
- ④非常口・脱出口はどこ
- ⑤就寝時に備えはできているか
- ⑥消火器名あるか

# 在宅避難

避難所に頼り切らない備えを!

# コロナ禍で大災害が起きたら？

**「在宅避難」をおすすめします!!**

発災時にまずは安全で安心できる地域防災拠点へ行こうと決めている方は、多いと思います。しかし、防災拠点は、自宅が倒壊・半壊してしまった、あるいは火災で焼け出されたなど自宅での生活ができない方たちのために市内の一部でも震度が5強が出た場合安全を確認して開設されます。皆さんが一旦学校に避難しても、自宅で居住が可能な場合、避難所生活ではなく、在宅での避難をおすすめします。



## 地域防災拠点（避難所）の現実を考えてください

- ◎中丸小防災拠点の収容人数に限界があります。（校区人口約2000人で収容人数70名3.5%）
- ◎生活環境は決して良好とはいえません
- ◎防災拠点に備蓄している食料・物資は限られています。
- ◎地域防災拠点の運営は運営委員が行うも被災者は運営主体でもあります。

災害の備え・対応は「自助・共助・公助が重要です」

◎災害から自らを守る自助はもちろん、大丸町内会ではおとなり場システムで共助を大切にしています

災害発生時の避難の考え方

防災拠点は災害時に重要な施設ですが、その提供できる内容には限界があることを知っておくことが必要です



**地震発生！**

**落ち着いて行動を!!**

**全力で身を守る行動を開始してください**

**震度5強以上の時 地域防災拠点開設**

震度6強の首都圏直下地震に備えるための耐震強化について「考える防災」で難から避けられましょう。

建物の耐震化が一番です。

### 1950年 新築基準法施行

建築基準法改正され1981年6月(S56年)改正され新耐震基準が「震度6～7の地震に対して倒壊しない」強度を確保「建物は壊れても居住者の命だけは守る」ことを目標

### 2000年住宅の品質確保の促進等に関する法律施行

建築基準法準拠の耐震性能を耐震「等級1」

「等級1の1.25倍の強さを耐震等級2, 」

「等級1の1.50倍の強さを耐震等級3

# 横浜市の住宅の耐震化の現状（令和2年度）

新築着工数は景気の鈍化により減少・世帯数の伸びも鈍化で減少

推計値で耐震化率91%目標95%の達成にはさらに約7万戸の住宅の耐震化が必要

○震度

特定の場所における地震の揺れの強さを表す数値

「ここがどれだけ揺れたか」の指標 最大震度

○マグニチュード

地震そのものの大きさ(規模)

「地震が発するエネルギーの指標」

	旧耐震基準	新耐震基準
中規模地震 (震度5強程度)	 倒壊しない	 軽微なひび割れ程度に留める
大規模地震 (震度6~7程度)	規定なし	 倒壊しない

# 最近の大規模地震の被害の概要

災害時に自宅で安全を確保できる場合には、新型コロナウイルス感染を防止するためにも**在宅避難**に努めてほしいと横浜市は市民要請

地震名称	熊本(前震・本震)	大阪北部	北海道胆振東部
発生時	H28・4.14・4.16	H30.6.18	h30.9.6
火災	15件	なし	1件
マグニチュード	M6.5 M7.3	M6.1	M6.7
深さ	11km12km	13km	37km
最大震度	震度7震度7	震度6弱	震度7
人的被害	死273重症1203	死6重症62	死43重症48
住宅被害	全壊8667半壊34719	全壊21半壊483	全壊469半壊1660
非住家被害	公共467 その他12918	公共773 その他43	2490

分散避難　ここで自宅以外に避難する場所  
親戚・友人・ホテルに分散避難してください。

現状では避難所はコロナ対応で収容人数が従来の3分の1に制限され中丸小学校地域防災拠点は体育館70人が精一杯です。中丸小学校区の人口は8町内会人口2000人　です。避難所に収容できるかたは1町内9人程度です。行政は避難所として災害が起きてから指定避難所以外を開設するようです。

## 在宅避難のためには

自宅の耐震診断や耐震化も必要です。

自助力の強化・事前の防災対策が自分や家族を災害からまもる事ができます。

家族で自分たちを守る「考える防災」について考える。

① まず災害がおこったら自分の安全家族の安全を確認する

災害が落ち着くまで自宅の安全な場所に避難する。

②在宅避難について考えましょう



現在地の状況（火災や避難指示など）を）確認

危険なし

火災の危険 避難指示



自宅にとどまる



あらかじめ指定された避難所や広域避難所に行くことが困難な時に、一時的に避難する公園や空き地

一時避難場所

地域防災拠点

中丸小学校



広域避難場所

片倉台住宅・うさぎ山公園

広域な災害の発生

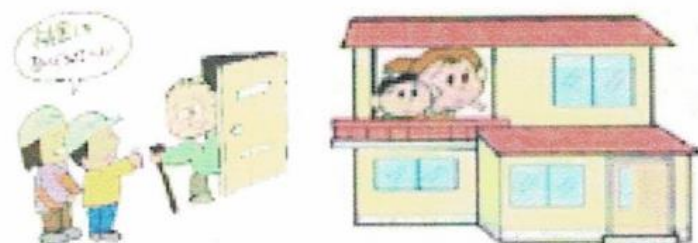


自宅に被害があるかどうか確認

被害がない

自宅へ帰る・自宅にとどまる

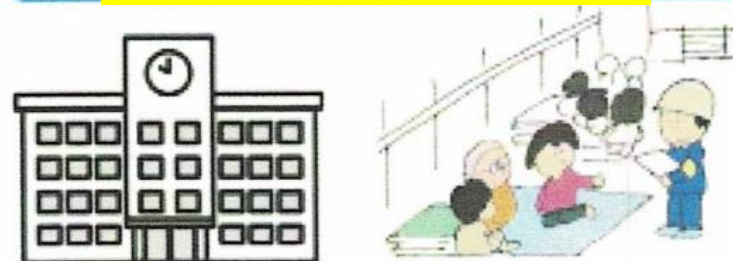
家屋が安全な場合、自宅での生活となります。



身体の安全・家屋の安全が確認された方については、自宅での“在宅避難”を推奨。電気・ガス・水道が止まっても、自力で1週間は過ごせるような準備をする“自助”が重要

倒壊・焼失・住めない

中丸小学校



避難所は、家屋の倒壊・焼失などにより、避難所で生活せざるをえず、物資の確保が困難な方に食料などを応急供給。しかし、避難所にある備蓄は大人1人あたり1食分程度。1人分のスペースは畳1畳分程度で、プライバシーの確保など、個々人の希望は聞けません。

在宅避難でも、拠点に届いた食料や物資・情報を受け取ることができます。避難者カードを記入し、拠点に届けることで、在宅避難者として登録されます。避難者カードは、必ず提出しましょう！

## 自宅でできる簡易トイレ。

◎震度5強以上の地震発生時は、「戸建住宅やマンションのトイレは使わない」！

◎各住戸でやるべきことは、「給水が止まっても水は流さない。！」

◎家庭の便器で非常用トイレを使うための下準備事前に試しておく和良好的でしょう。ゴミ袋利用して燃えるごみとして廃棄できます。

## ライフラインが停止したときは

◎電気 停電した時には電化製品のプラグを抜き、ブレーカーを落としておきましょう。電源がはいったままですと通電した際火災の原因となることがあります。停電中の照明として懐中電灯・ランタン・予備の電池の備えをしておきましょう

。

◎ガス 震度5以上の強い揺れやガス漏れが検知されると自動的にとまります。ガス停止の備えとしてガスコンロ等を用意してください

## 在宅避難するためには

◎自宅で生活するために必要な生活物品を備蓄する。  
。私たちに支援の手が届くまで相当の日数がかかります。家族1週間分の水と食料は自前で備蓄しておきましょう。これにカセットコンロ一式、簡易トイレ、常備薬、生理用品など最低限に必要なだと思うものを、ぜひ用意してください。買い置きは長持ちするものでなくても構いません。家庭内で消費しながら順次買い足していけば普通のもので十分です。

## 家具類の安全対策をとりましょう

◎地震による負傷者の30%～50%は、家具類の転倒、落下が原因です。家具の天板と天井の間を突っ張り棒で固定することや、タンスと壁をL字金具で固定するなど安全対策を行ってください。家具の固定が難しいようでしたら、家具の配置の工夫から始めましょう。災害を想定し、寝る場所の近く避難通路となる重要な場所には家具を置かないようにしましょう。

## デマや噂に惑わされることなく正確な情報収集 を行いましょ

◎情報収集の手段としては、テレビやラジオ・インターネットなどが一般的となりますが、停電に備え乾電池で対応可能なラジオなどは常備ください。また、極力信頼性の高い情報の収集に心がけましょ。悲しいことですが、災害時におけるデマが実在します。情報の収集場所として地域防災拠点を利用してください。

被害状況・水や食料・生活物資の配布予定などを広報する予定です。また地域巡回による、広報も検討していますので、屋外の音にも注意を払ってください。

## 非常用持ち出し袋に入れておきたいもの

- 現金
- 印鑑
- 医薬品
- 救急セット
- ポリ袋
- ティッシュペーパー・ウエットティッシュ
- 健康保険証
- 免許証(コピー)
- 通帳
- 懐中電灯
- 非常食(乾パン・缶詰・ビスケット・チョコレート・レトルト食品)
- 飲料水
- ライター・マッチ
- 缶切り・ナイフ(五徳ナイフ・十徳ナイフ)
- 下着・靴下
- タオル
- 歯ブラシ



## 自宅に備えて置きたいもの

- 食料(アルファ化米等)
- 飲料水(1日1人分3リットル)
- 携帯ラジオ
- 電池(ラジオや懐中電灯用)
- 携帯電話の手回し充電器
- ビニールシート・袋
- マスク
- ヘルメット(防災ずきん)
- 防寒具
- 軍手
- 裁縫セット
- 救急セット

## その他必要なものを用意しておきましょう

- 眼鏡・コンタクトレンズ
- 母子手帳
- 紙おむつ
- 粉ミルク・哺乳瓶
- 処方箋・常備薬
- 入れ歯
- 生理用品
- 卓上コンロ・固形燃料
- ペット用品(ケージ・フード・リード)

## 家族分の1週間程度の備蓄を行うコツ 循環備蓄(ローリングストック方式)

飲料水や食料など防災用として販売しているものやセットで売られているものなどを購入し、何年も保存しておく方法もありますが、中身が何か知らなかったり、いつの間にか保存期間が過ぎていたりする場合があります。

ここでは、日常の買い物の中から。

①日持ちするものを多めに買っておく

②期限を確認しながら食べる

③食べた分を補充する

循環備蓄品をお勧めします。

こうした工夫で3日間程度の備蓄がすぐにできます。これに常温保存のもの、保存食を加えて、同じように循環させていけば、1週間程度の備蓄も可能となります。

※停電中は冷蔵庫の中の物は保存が心配です。冷蔵庫の中の物を先に食べ、常温保存のもの、保存食の順に食べるなど順番を考えて食べるものを有効活用できます。おわり